

五百亀に会いに行く

彫刻家 伊藤五百亀の言葉で作品を感じる旅

伊藤五百亀市内展示作品

- | | | | | | |
|-------------|----------|---------|-----------|-------------|-------------|
| 1 うたかたの譜 | 7 服部久吉胸像 | 13 注目 | 19 漸 | 25 渚 | 31 まひる |
| 2 潮先 | 8 勤王 | 14 すこやか | 20 五月晴れ | 26 爽 | 32 野口英世レリーフ |
| 3 十河信二頭像 | 9 瀬戸の海 | 15 青年の詩 | 21 野口英世胸像 | 27 野口英世レリーフ | |
| 4 十河信二レリーフ | 10 木陰の柵 | 16 待つ | 22 十河信二胸像 | 28 途 | |
| 5 村上徳太郎レリーフ | 11 行く河 | 17 悠 | 23 水の精 | 29 爽 | |
| 6 伊藤一レリーフ | 12 観 | 18 あすなろ | 24 うたかたの譜 | 30 壁 | |



1 24 うたかたの譜

私なりの理想の体型を持つ青年像の代表作だと思っている。



2 潮先

潮先というのは、これから潮が満ちてくるというたいへんめでたい意味がある。私が戦時中、一時仕事をやめていて、再出発の起点にするために制作した思い出深い作品だ。



10 木陰の柵

着衣の青年像としては、私の最も気に入っている作品の一つである。



11 行く河

学問の本質として孔子が述べた「百川を集めて大河となり、未来永劫流れて尽きず」という永遠不滅の真理を象徴する題として「行く河」と名付けた。

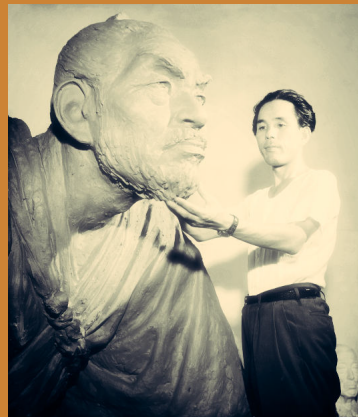
美しいものに憧れ、作品を作る。
芸術は真・善・美であり、
人の心に潤いや豊かさや平和な心、
人を愛するひろい心を育むことが芸術であると
私は思う。

伊藤五百亀 56歳



25 渚

子供のころ、母親に連れられて行った桜井海岸の思い出を表現した。



彫刻家 伊藤 五百亀

Ito Irohiko
(1918~1992)

現在の西条市黒潮出身
多摩帝国美術学校で学び
吉田三郎に師事

- 1942年 文展(日展の前身)に初入選
- 1943年 同展特選
- 1954年 日展において特選
- 1955年 同展特選
- 1958年 日展会員となる
- 1974年 日展、文部大臣賞受賞(うたかたの譜)
- 1982年 芸術院賞受賞(渚)
- 1991年 西条市功労賞受賞

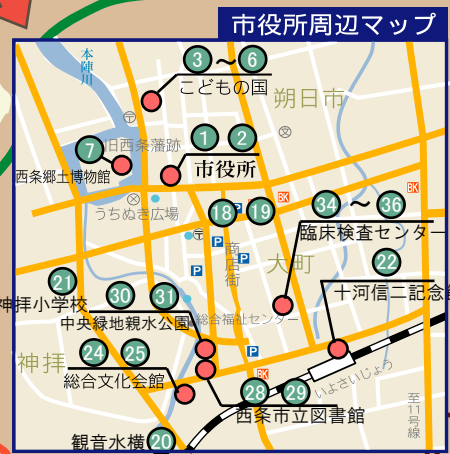


16 待つ

生まれた場所に私の作品を建ててもらえてうれしい。感動の限りです。

対象物と制作者の技法・
意図、それに鑑賞者の
見る目によって幾通りも
の評価が生まれる。

伊藤五百亀 63歳



19 漸

自身の体験談や、自慢話、
将来の夢を時には熱く時には
しめじみと語る若者の
姿である。
未来に向かって前向きに
生きようとする(若者の)姿
を表現したものだ。



問い合わせ
西条市教育委員会社会教育課
〒793-8601 西条市明屋敷164番地
TEL (0897) 56-5151 FAX (0897) 52-1210
e-mail syakaikyoku@saijo-city.jp